

ウズベキスタン

2020年11月6日
海外調査部・タシケント事務所

2019年のウズベキスタンの実質GDP成長率は5.6%となり、経済構造改革路線を掲げるシャフカト・ミルジヨエフ大統領の就任以来最も高い経済成長を記録した。一方、外為規制緩和による輸入の急増やインフレ率の上昇など、改革に伴う新たな経済的課題も発生している。同国政府は国際金融機関の支援も受けつつ財政と対外収支の安定化を図ろうとしている。2019年12月にはミルジヨエフ大統領が初訪日し、両国関係に注目が集まっている。

■現大統領就任以降最も高い経済成長を実現

2019年の実質GDPは前年比5.6%増。2016年12月のミルジヨエフ大統領就任から最も高い経済成長となった。同大統領が進める経済構造改革が成長の追い風となっている。GDPの部門別の成長率は鉱工業が8.9%、サービスが5.1%、農業が2.5%で、鉱工業では冶金と輸送機械製造、建設が特に好調だった。

表1 ウズベキスタンの主要品目別輸出入

(単位：100万ドル、%)

輸出 (FOB)				
品目	2018年		2019年	
	金額	金額	構成比	伸び率
金	2,910	4,918	28.2	69.0
サービス	3,070	3,435	19.7	11.9
エネルギー製品	2,667	2,529	14.5	△5.2
織物・同製品	1,300	1,627	9.3	25.2
食料品	1,098	1,530	8.8	39.4
非鉄金属・同製品	852	951	5.4	11.6
化学品・プラスチック製品	905	878	5.0	△3.0
機械・設備	213	427	2.4	100.7
鉄鋼・同製品	320	303	1.7	△5.3
綿繊維	222	282	1.6	26.8
その他	434	579	3.3	33.4
合計	13,991	17,459	100.0	24.8
輸入 (CIF)				
品目	2018年		2019年	
	金額	金額	構成比	伸び率
機械・設備	8,366	10,633	43.8	27.1
化学品・プラスチック製品	2,528	3,202	13.2	26.7
サービス	2,127	2,426	10.0	14.1
食料品	1,582	1,885	7.8	19.2
鉄鋼・同製品	1,580	1,843	7.6	16.6
エネルギー製品	880	941	3.9	6.9
非鉄金属・同製品	194	274	1.1	41.2
その他	2,184	3,089	12.7	41.4
合計	19,439	24,292	100.0	25.0

〔出所〕ウズベキスタン国家統計委員会

2019年の消費者物価上昇率（前年末比）は15.2%（2018年は14.3%）だった。大統領令第5877号により2020年1月から段階的なインフレターゲット政策が導入されており、2021年のインフレ目標は10%と設定されている。

通貨はスム安傾向が続いている。2019年8月、中央銀行は為替の変動相場制移行に向けスムのレート許容変動幅（コリドー）制度の終了を発表。直後にスムの対ドルレートが急落、7月の1ドル=8,595スムが8月には9,030スムとなった。2020年5月には10,000スムを超えている。

経済構造改革では国有企業の民営化に向けた動きが続いている。金融分野では対外経済活動銀行（NBU）の株式会社化が決定し、エネルギー分野では今後株式公開が予定されているウズベクネフテガスが担っていた石油・天然ガスの探査機能を、地質・鉱物資源国家委員会へ移管す

ることが決定した。

■輸出入ともに25%増、大型投資案件も

国家統計委員会によると、2019年の貿易は輸出が前年比24.8%増の175億ドル、輸入が25.0%増の243億ドルとなり、貿易赤字が拡大した。輸出では全体の28.2%を金が占め、サービス（輸送・観光など）が19.7%、エネルギー・石油製品が14.5%。輸入は全体の43.8%を機械・設備が占め、化学品・プラスチック製品（構成比13.2%）、サービス（10.0%）などが続く。

国別では輸出入ともにロシアと中国の比率が高い。国際貿易センター（ITC）の統計によれば2019年には対口輸出の構成比が3割（2018年実績）だった天然ガスが52.5%増となり、対口輸出額は19.6%増加した。中国への輸出は、構成比6割（同）の天然ガスが3割減、銅・同製品も半減し、全体で12.1%減となった。一方、対中輸入は43.6%の大幅増となった。輸入の約4割（2018年実績）を占めた機械・設備、約1割の電気機械、自動車がそれぞれ39.1%、45.6%、2.3倍増加したことによる。対口輸入も鉄・鉄鋼製品、機械・設備、自動車、植物油、電気機械などが増加し16.9%増となった。2019年の貿易収支は前年より4億4,100万ドル赤字幅が拡大したが、経常収支赤字は3億4,800万ドル縮小した。これは国外（主としてロシア）にいる労働移民からの送金増加によるところが大きい。

対内直接投資額は国連貿易開発会議（UNCTAD）の統計で前年比3.7倍の22億8,600万ドルと大きな増加をみせている。大型案件としてはルクオイル（ロシア）によるブハラ州・カシカダリヤ州での天然ガス・石油開発、ユニテル（ロシア）によるタシケント市での移動通信システム整備、インドラマグループ（シンガポール）によるカシカダリヤ州・スルハンダリヤ州での綿繊維分野での投資などが挙げられる。

■ミルジヨエフ大統領初訪日、両国経済関係の強化を確認

日本側「貿易統計（通関ベース）」によると、2019年の対ウズベキスタン輸出額は前年比64.5%減の1億8,702万ドル、輸入額は12.4%減の465万ドルだった。輸出の大幅減少は原動機の90.1%減、輸入は非鉄金属（アルミニウム）の58.4%減による。一方で、輸

表2 ウズベキスタンの主要国別輸出入

（単位：100万ドル、%）

輸出 (FOB)				
	2018年		2019年	
	金額	金額	構成比	伸び率
ロシア	2,117	2,532	14.5	19.6
中国	2,875	2,529	14.5	△12.1
カザフスタン	1,352	1,393	8.0	3.0
トルコ	945	1,218	7.0	28.9
キルギス	270	670	3.8	148.3
アフガニスタン	603	617	3.5	2.4
タジキスタン	237	328	1.9	37.9
イラン	173	220	1.3	27.2
フランス	196	215	1.2	9.4
日本	19	34	0.2	79.7
合計（その他含む）	13,991	17,459	100.0	24.8
輸入 (CIF)				
	2018年		2019年	
	金額	金額	構成比	伸び率
中国	3,558	5,109	21.0	43.6
ロシア	3,539	4,138	17.0	16.9
韓国	2,050	2,665	11.0	30.0
カザフスタン	1,567	1,942	8.0	23.9
トルコ	1,113	1,326	5.5	19.2
ドイツ	725	928	3.8	27.9
米国	378	567	2.3	50.0
リトアニア	279	445	1.8	59.7
トルクメニスタン	243	410	1.7	68.6
日本	689	386	1.6	△44.0
合計（その他含む）	19,439	24,292	100.0	25.0

〔注〕 サービスを含む。

〔出所〕 ウズベキスタン国家統計委員会

表3 ウズベキスタンの対内直接投資の推移（実行ベース、ネット、フロー）

（単位：100万ドル）

	2016年	2017年	2018年	2019年
対内直接投資額	1,663	1,797	625	2,286

〔出所〕 国連貿易開発会議（UNCTAD）

出では通信機、建設用・鉱山用機械、輸入では織物用糸・繊維製品、野菜・果実などが増加した。

事業環境の好転や日本人への査証免除措置（2018年2月）を受け、案件開拓のため現地を訪れる日系企業も増えている。教育や観光、日本向けの技能実習生派遣といった分野で積極的に事業を展開しようとする動きもみられる。2019年10月にタシケント市は、日本のホテル運営大手H.I.S.ホテルホールディングスが同市内にホテルを建設することを発表。2020年2月には建設工事が開始された。伊藤忠商事といすゞが出資する「サマルカンド自動車工場（サムオート）」は2019年12月、いすゞブランドのピックアップトラック「D-MAX」の組み立てを開始した。

2019年12月にはミルジヨエフ大統領が初訪日し、安倍晋三首相や実業界の代表と会談した。訪日前日には「日本ウズベキスタンビジネスフォーラム」が東京で開催され、両国間で過去最大の経済イベントとなった。大統領訪日後には対日関係を引き続き強化する方針が出されている（2019年12月28日付大統領決定第4553号）。

■新型コロナウイルスの影響

ウズベキスタンで2020年3月15日に初めて新型コロナウイルス感染者が確認されて以降、公共交通機関の運行停止やレストランなどの営業制限など経済活動に厳しい制限がかけられた。国際通貨基金（IMF）は5月12日発表のレポートで、2020年のウズベキスタンの経済成長予測を（新型コロナウイルス感染症発生前の）6.0%から1.5%に引き下げた。また、国外の労働移民からの送金減少と経常収支赤字幅の拡大、国内の保健医療分野への支出増加による財政収支の赤字化などをマクロ経済のリスクとして言及している。

主要経済指標

	2017年	2018年	2019年
①人口:3,391万人(2020年1月1日)			
②面積:44万8,900km ²			
③1人当たりGDP:1,724米ドル(2019年)			
④実質GDP成長率(%)	4.5	5.4	5.6
⑤消費者物価上昇率(%)	18.8	14.3	15.2
⑥失業率(%)	5.8	9.3	9.0
⑦貿易収支(100万米ドル)	△2,216	△6,867	△7,308
⑧経常収支(100万米ドル)	1,476	△3,594	△3,246
⑨外貨準備高(グロス)(100万米ドル)	28,077	27,081	29,172
⑩対外債務残高(グロス)(100万米ドル)	15,786	17,295	24,369
⑪為替レート(1米ドルにつき、スム、期中平均、公定レート)	5,121	8,069	8,837

〔注〕③：推計値、⑤：12月の前年同月比、⑦：国際収支ベース（財のみ）
 〔出所〕①③④：ウズベキスタン国家統計委員会、②：国土地理国家委員会、⑤⑦～⑪：ウズベキスタン中央銀行、⑥：ウズベキスタン雇用労働関係省

(お問い合わせ先)

海外調査部 欧州ロシアCIS課

ORD-RUS@jetro.go.jp